

News Letter

自治医科大学附属病院 卒後臨床研修センター

夏空がまぶしく感じられるころとなりましたが皆様いかがお過ごしでしょうか。さっそく Newsletter 第52回配信です！ どうぞお楽しみください。

〈 診療科紹介 呼吸器内科 〉

学生のみなさんこんにちは。今回は呼吸器内科について紹介します。

呼吸器内科の魅力を一言で言うと、「守備範囲の広さ」に尽きると思います。日常臨床の多くを占めるかぜや咳の診療や検診での胸部異常陰影の診断をはじめ、肺炎などの感染性疾患、COPDなどの閉塞性肺疾患、肺癌などの腫瘍性疾患、気管支喘息などのアレルギー性疾患、間質性肺疾患、膠原病関連肺疾患、血管性疾患など、多岐にわたる領域の疾患を当科はカバーしております。

これらの疾患において、正確な診断を目標に、採血検査、喀痰検査、胸部 X 線検査、胸部 CT 検査、呼吸機能検査、気管支鏡検査（当院では年間約 400 件程度行っております）など、様々な検査を駆使しております。また入院患者さんにおいては全例でカンファレンスを行い、患者さんの方針の決定はさることながら、若手医師の教育の場となっております。また肺癌や間質性肺炎など専門的知識の要求される疾患においては、それぞれカンファレンスの場を設け、エキスパートや幅広い医師の意見を確認しながら診療を行っております。

治療においても種々の薬物療法（抗生剤、抗癌剤、ステロイド、分子標的薬など）をはじめ、急性呼吸不全における全身管理（酸素療法、人工呼吸器の管理、輸液・栄養管理など）や慢性呼吸不全における在宅酸素療法などを熱心な指導医のもとで学ぶことができます。

当科では全国から医師が集結しています。呼吸器内科の医局員は出身地も出身大学も皆バラバラだからこそ仲も良く、雰囲気も最高です。女性医師も多く在籍しております。出産や育児などのライフステージに応じた女性医師の働き方を全面的にサポートしております。随時見学の受け入れも行っております。全国の学生さん、研修医の先生、心よりお待ちしております。



【医師国家試験予想問題】

国家試験によく出題される一般問題、臨床問題を一問ずつ作成しました。
チャレンジしてみてください。

【問題1】

慢性閉塞性肺疾患〈COPD〉でみられる肺機能検査所見はどれか。2つ選べ。

- a. FEV_{1.0}%の増加
- b. RVの低下
- c. TLCの低下
- d. DLcoの低下
- e. 静肺コンプライアンスの増加

解答 d, e

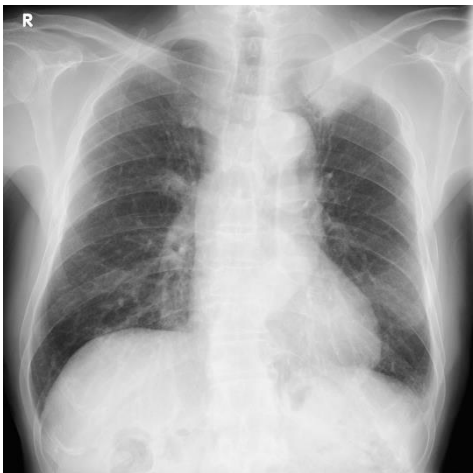
慢性閉塞性肺疾患〈COPD〉において、FEV_{1.0}%<70%未満を気流閉塞の判断基準とする。COPDでは肺弾性収縮圧の低下および気流制限により、TLC、FRCおよびRVが増加する。またCOPDでは気腫性変化による肺胞壁破壊に伴い、肺胞ガス交換面積と肺毛細血管床の減少を認める。この変化に伴いDLcoは低下する。気腫性のCOPDにおいて肺弾性収縮圧が減少する結果、健常者に比べて静肺コンプライアンスは高値を示す。

【問題2】

72歳の男性。左上肢麻痺を主訴に来院した。1ヶ月前から左上肢のしびれを自覚し、疼痛も伴うようになった。次第に左上肢麻痺が出現し、徐々に悪化したため近医を受診した。胸部エックス線写真で異常陰影を指摘されたため受診した。既往歴に特記すべきことはない。喫煙は20本/日を52年間。意識は清明。身長164cm。体重60kg。体温36.0℃。脈拍68/分、整。血圧140/88mmHg。呼吸数18/分。SpO₂98%（室内気）。胸部エックス線写真と胸部造影CTを別に示す。

この患者の身体所見として考えられるのはどれか。2つ選べ。

- a 左散瞳
- b 左縮瞳
- c 左眼瞼下垂
- d 左鼻唇溝の消失
- e 左顔面の発汗増加



解説

正解 b、c

重喫煙歴のある高齢男性であり、悪性腫瘍が疑われる。胸部エックス線写真で左肺尖部に腫瘤影を認め、造影C Tでも周囲に浸潤傾向のある腫瘤を認め、左上肢の麻痺の原因としてPancoast腫瘍が考えられる。

a, b, c, e 頸部交感神経節に腫瘍が達するとHorner症候群（同側の縮瞳、眼瞼下垂、発汗低下）をきたす。

d 左顔面神経麻痺に伴う徴候である。Pancoast型肺癌では顔面神経麻痺は生じない。